

Monthly Digest

沖繩のフチャク・リゾート

「コンド・ホテル」が一部開業

コンドミニウムは大成建設が代理店を通じて企業や個人に販売。購入者が利用しない期間は客室として運用、購入者に還元するという。09年度の売り上げ目標は20億円。地元を中心に138人採用した。

レジャー施設運営のカトープレジャーグループ（東京、加藤友康社長）の子会社で、ホテル運営を手掛けるKPGホテル&リゾート（長崎市、麻生宏社長兼最高執行責任者）が運営する沖縄県恩納村富着のコンドミニウム併設ホテル「カフーリゾートフチャク コンド・ホテル」が一部開業した。全面開業は来年3月1日の予定。

同ホテルは12階建て。敷地面積2万3800平方メートル。客室数249のうち、ホテル部分が143室、分譲型のコンドミニウムが106室あり、キッチンや冷蔵庫などが設置されている。同ホテルは当初、新興不動産デベロッパーのゼファー（東京）が建設していたが、同社が昨年7月、民事再生法を申請したため中断。大成建設（同）が事業を継承して建設、ホテル運営を沖縄市の「東京第一ホテルオキナワグランメーラリゾート」を運営するKPGに委託した。